

トピックス

コホーティング

七木田 方 美

【広義のコホーティング】

コホーティングとは、コーホート（cohort：集団）の維持を意味します。

コーホート（集団）は、共通した因子、同じ属性、もしくは同じ外的条件におかれた集団のことをいい、観察対象となる集団のことをいいます。

保育におけるコホーティングは、例えば、年齢別にクラスを編成したり、園庭の遊び場所を区分したりしていることが該当します。

一方、医療におけるコホーティングは、医療施設内で感染性の高い感染症が多数発生した場合、それ以上感染が広がらないように感染症別に人を集め、区別することです。例えば、子どもが感染症に罹り、登園できないときに利用する病児保育室では、感染症別に保育室を分けていますが、これが医療におけるコホーティングにあたります。

【COVID-19における保育のコホーティング】

COVID-19感染拡大に伴い、CDC（Centers for Disease Control and Prevention：アメリカ疾病予防管理センター）は、ECEC（Early Childhood Education and Child Care：就学前施設）を対象に、COVID-19に対する予防戦略として、「予防接種の推奨」と共に、「身体的距離とコホーティング（Physical Distancing and Cohorting）」を提示しました。

CDCが就学前施設に示したコホーティングとは、保育集団（コホート）を小さくし、同一集団が共に過ごすことを意味しています。そして、各グループが他のグループと交わらないようにするというものです。概念図を図1に示します。

なお、CDCの保育におけるコホーティングの表記は次の通りです。原文は最後に示すURLもしくはQRコードより閲覧できます。

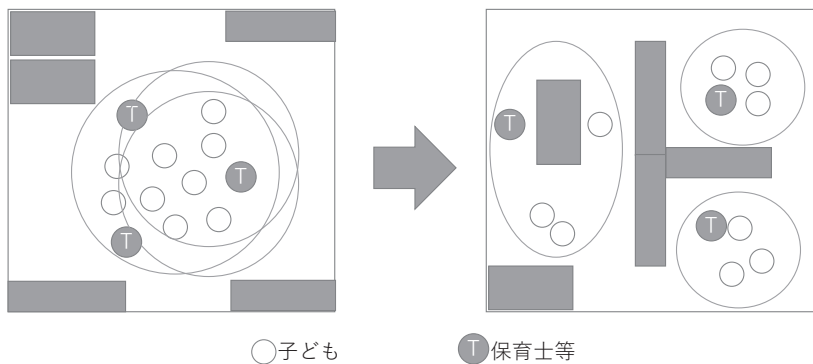


図1. 乳児クラスのコホーティングの概念

最小限の同じメンバーで過ごし、他のグループとの距離を保つことで、感染拡大を防ぐ

【保育におけるコホーティング】

- ・子どもと保育者のグループを小さく一定にし、継続的に同じグループを維持します。
- ・グループ間の交流を、皆無もしくは最小限にします。
- ・グループ間、もしくは異なるグループの個人との間隔は、6 フィート (180cm) 以上を維持するようにします。
- ・おもちゃ交換マット、ベビーベッドを子どもごとに分けます。ベッドの間隔は6 フィート (180cm) 以上が理想的です。
- ・共有エリアでは、間隔が保てるよう、壁に標識をつけたり、床にテープ等でマークをつけたりします。
- ・グループ間の共有スペースの使用をずらします。
- ・屋外活動を優先します。可能であれば、身体的に活発な遊びは屋外で行います。
- ・可能であれば、屋外の遊び場においてもグループを維持します。

保育は、抱っこが基本です。保育者と子ども、子ども同士の身体的距離を維持することは、とても難しいことです。このコホーティングにより、グループ内での感染があったとしても、グループ間での感染を防止でき、蔓延を防ぐことができます。

我が国の保育とアメリカの保育は対象とする年齢や保育時間等、違いも多くありますが、平成30年度に施行された保育所保育指針解説が示す「緩やかな担当制」は、このコホーティングに近似しています。

〈引用・参考文献〉

CDC “COVID-19 Guidance for Operating Early Care and Education/Child Care Programs” Updated Jan. 28, 2022
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/community/schools-childcare/child-care-guidance.html>



厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年2月
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidouka-teikyoku/0000202211.pdf>

